

「社会健康医学」基本計画策定委員会（第1回）会議録（議事要旨）

日 時	平成29年5月17日（水）午後3時30分から午後5時00分まで
場 所	中島屋グランドホテル4階「オーキッド」
出席者 職・氏名	出席委員：12名（敬称略） 本庶佑、鬼頭宏、佐古伊康、田中一成、鶴田憲一、徳永宏司、 中山健夫、宮田裕章、宮地良樹、望月律子、山本清二、山本敏博 欠席委員：なし 事務局 副知事 吉林章仁 健康福祉部長 山口重則 健康福祉部部長代理 池田和久 健康福祉部理事 壁下敏弘 健康福祉部理事 土屋厚子 健康福祉部管理局長 前島稔生 ほか健康福祉部職員
議 題	1 「社会健康医学」基本計画策定委員会について 2 「社会健康医学」基本構想検討委員会での議論の概要について 3 「静岡県の健康寿命の延伸に向けた提言」を具体化するための 方向性について 4 その他
配布資料	議事次第 資料1 「社会健康医学」基本計画策定委員会設置要綱 資料2 「社会健康医学」基本計画策定委員会委員名簿 資料3 「社会健康医学」基本計画策定委員会開催日程（案） 資料4 「社会健康医学」基本計画策定委員会（第1回）について 資料5 静岡県の健康寿命の延伸に向けた提言（概要） 資料6 提言を具体化するための方向性について 参考資料 「社会健康医学」基本構想検討委員会での議論の概要 静岡県の健康寿命の延伸に向けた提言（冊子） 静岡県の健康寿命の延伸に向けた提言（英語版）

## 1 審議事項

- (1) 「静岡県の健康寿命の延伸に向けた提言」を具体化するための方向性について
- (2) まとめ

## 2 審議内容

山口健康福祉部長から、資料6に基づき、「静岡県の健康寿命の延伸に向けた提言」を具体化するための方向性について説明した後、各委員による議論を行った。

(1) 「静岡県の健康寿命の延伸に向けた提言」を具体化するための方向性について  
ア 研究

- ・研究推進のためには、制度的な基盤をつくる必要がある。
- ・65万人の健診データの更なる活用のため、例えば、時系列ごとに閉じたデータ（各年がつながっていないデータ）をつなげる。
- ・（普段の日常生活など）行動心理学的な側面のデータを取り込んでいくことが、将来的に社会健康医学研究を発展させる。
- ・東部と西部の特性に合った施策が取られているか疫学的に分析していくと、それぞれの自治体が新たな施策を考える時に有用である。

イ 人材育成

- ・高度医療の提供における病院間の連携、地域内でより良い医療を提供するための診療プロセスの改善など、実データに基づきながら地域全体の視点で考えることができる医療専門職の育成が、人材育成の一つとして考えられる。
- ・研究者や医療専門職の育成には、学位や資格の取得といった魅力が必要。
- ・健康づくり実務者として、静岡県も、民生委員や高齢で元気な人を再雇用、再教育する視点を人材育成に加える。
- ・これまでの施策の体系化や医療データの要因分析などを継続的に進めていく研究者の養成が必要。

ウ 拠点

- ・具体的に研究するなら研究所が必要、人材育成もするなら大学院が必要。
- ・次世代型の臨床研究がここではできるなど具体的なメリットが見えるような拠点とする必要がある。
- ・成果を県民に還元できる拠点とするには、臨床現場と近い又は医療機関の中にあることが大切。
- ・大学の学部と違い大学院の場合は、多様性が許容され、それが人的ネットワークにもなるため、有効な選択肢である。
- ・新たに拠点をつくるのではなく、今ある力、持っている力をいかにまとめるか、有効なネットワークの構築についても同時に考えておいた方が良い。

(2) まとめ

- ・静岡県の健康寿命の更なる延伸のため、研究は、じっくり腰を据えて取り組む必要がある。
- ・若者にも魅力のある拠点とし人材を集めるなど、幅広い研究者が集まってこないと、これだけのプロジェクトは動かない。
- ・新たに大学院や研究所を設置することが必要。拠点の整備は県を挙げてやらないとできない。